官能短歌集

しつとりと汗で濡れしは乱れ髪

あわよくば君との夜に交わりを

うそぶいて鳴きつつ君の目盗み見る

広がりし染みも乾けば朝告げ鳥

酔い覚まし乳房にかいた汗拭う

爪の痕もがいた分だけ残る背中

波のようくらりくらりと流される

舌鼓やわらかい肉したたかに

日焼け痕白い部分をなぞり合う

触れたのは剥き出しの君　脈の音

今日だけは天井見つめ鳴いていて

無意識に溜まる唾きに喉鳴らす

奪い合い勝負はいつもお預けね

牙を剥きじっと目を見て説き伏せる

蜜まみれ何処もかしこも艶めきて

掴み合い乱した布団皺だらけ

朱に染まる小さな果実舐め上げて

漏れる声抑えてもなお漏れる息

片側だけ足に巻きつく布っきれ

結わえ髪揺れる首筋　花薫る

ねえ見える?背中に牡丹咲いてるの

湿る指押し返すのは君の肌

撫でさするかさつく指に感ずる秋

道すがり　合った視線に汗滲み

口付けた黄金の髪は夏の味

仰向けの視界の先にお月様

同じ場所目指してゆけど未だ見えず